

[学校教育]課 経営計画書（総括表）

■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	R3 度計画額（単位：千円）		R3 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	教育委員会事業	B	2,052	0	0.5	0.1
2	学校教育管理事業	A	51,929	807	0.7	2.6
3	小学校運営事業	B	105,162	701	0.9	26.1
4	小学校施設管理事業	B	50,168	0	0.4	0.2
5	小学校整備事業	B	72,977	0	0.2	0.0
6	小学校教育振興事業	B	10,245	200	0.9	0.4
7	中学校運営事業	B	53,165	35	0.9	9.1
8	中学校施設管理事業	B	32,737	0	0.4	0.2
9	中学校教育振興事業	B	16,784	1,190	0.8	0.3
10	社本育英事業	B	17,432	17,432	0.1	0.0
11	こども未来応援事業	B	4,620	4,620	0.2	0.0
合 計			416,591	24,985	6.0	39.0

■特記事項

--

令和3年度 事業別行政経営計画書【B】

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	1
事業名	教育委員会事業		

■基礎情報

目的	広く地域住民と連携しながら家庭や地域社会の教育力の向上を図り、住民が自由に学びその成果が適切に評価される生涯学習の実現及び、教育の中立性・継続性・安定性を確保する。
事務内容	・教育委員会定例会の実施
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none">・定例会ごとに部内各課所管事業の管理執行状況の報告を行うようにした。・平成28年8月から定例会の開催を町ホームページ上で周知し、12月から新教育委員会制度に移行した。・「教師力向上セミナー」など研修会を開催し、実情に即した研修となるよう講師を選定。現場が抱える問題について、専門的な立場から講演、助言をいただき、解決策を導くきっかけとしている。また、各学校単位ではなく、町全体で研修を行うことで、統一的な見解、意識を持つことにつながっている。・学校訪問や研究発表会などを通して、学校を訪問し、児童生徒や教職員の現状の確認を行った。・教員の定数改善が行われぬまま、働き方改革の名の元在校時間を減らすことが求められている。
令和3年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none">・「生涯学習のまちづくり」という広い視点から教育委員会活動を考え、他部局との連携を図る必要がある。・定例会において部内各課所管事業の管理執行状況の報告をより充実させる。・委員の意見交換、聴取または、委員との意見交換や協議ができるよう会議の内容について検討を行う。

■ 第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第1章	次代を担う子ども・若者の育成				
	基本政策	第2節	学びの基礎をつくる				
成果指標	/						
H26 実績値	R1 実績値	R2 計画値	R3 目標値	R4 目標値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値

■ 3年間の目標

目標	/					
項目(単位)	R1 実績	R2 計画	R3 目標	R4 目標	R5 目標	

■ 2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R4 年度	学校行事や部内各課の事業等が多くすべての行事参加は難しいことから、定期的に情報を提供し、行事を選択する。
R5 年度	教育委員と部内各課の情報交換ができる機会を設ける。

■ 作業工程 (当該年度)

月	作業内容
4 ～ 3	教育委員会定例会 (毎月1回開催) 教育委員1名の任期満了に伴う準備 6月又は9月に 議会定例会へ人事案件を上程

■事業コスト

		単位	R1 年度決算額	R2 年度当初予算額	R3 年度計画額
事業費		千円	1,744	2,081	2,052
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0.4	0.5	0.5
	会計年度 任用職員	人工	0.2	0.1	0.1
	計	人工	0.6	0.6	0.6

■令和3年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■令和3年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 定例会では、令和2年度より作成している「生涯教育部各課からの連絡及び報告事項」により、部内各課所管の事業や執行状況を教育委員に報告することができている。
- ・ 令和2年度に引き続き、コロナの感染拡大防止の観点から、教育委員も参加を自粛する学校行事が多かった。
- ・ 定例会の中で、教育委員から意見をもらう機会を設け意見交換等を行った。

■ 評価

- ・ 定例会資料用に「生涯教育部各課からの連絡及び報告事項」を作成することで、委員には各課の事業等を適切に伝えることができ、職員側も進捗状況を確認する機会となっている。
- ・ 令和2年度、3年度とコロナの感染拡大防止の観点から、多くの学校行事が来賓の出席を見合わせ、教育委員の参加も自粛した。来年度以降、徐々に参加規制が緩和されれば、参加をしてもらい、現場の様子を見ていただきたい。
- ・ 定例会の中で意見交換を行うことで、教員、保護者の視点とは違った意見を聞くことができた。
- ・ 学校訪問は、コロナ以降訪問時間が短縮されているが、児童生徒、教職員の様子から学級、学校の状況を把握する有効な機会であることから、今後も参加し率直な意見を述べていくことが必要である。

■ 特記事項

令和3年度 事業別行政経営計画書【A】

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	2
事業名	学校教育管理事業		

■基礎情報

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりと授業改善を目指すとともに、教員の資質向上を図る。 ・確かな学力の定着と豊かな心の育成、また、健康や体力などすべてにおいて調和のとれた子どもを育むとともに、子ども一人ひとりの個性を伸ばす教育を推進する。
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室 ・就学時健康診断 ・教職員等健康診断
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・就学相談 <ul style="list-style-type: none"> 各小学校の協力を得て、新小学1年生の就学時健康診断を行っている。就学に向けて不安がある場合は、教育委員会で随時相談を受け、関係機関と連携を取りながら適切な就学を進めているが、近年、相談内容も様々で件数も増加傾向にある。また、外国籍の方の転入に伴う相談も増加している。 適応指導教室では、保護者、学校、指導員と連絡調整を密にしながら、学校生活への適応が困難で、不登校及びその傾向にある児童生徒のフォローアップが必要である。 児童生徒は、学校だけでなく家庭環境、日常生活面において様々な問題に直面しており、教員だけでは解決が難しいことも多く、スクールソーシャルワーカー（SSW）（R1.10月配置）が、各学校へ巡回を行い、就学に関する相談も行っている。 ・学校保健関係 <ul style="list-style-type: none"> 教職員健康診断、ストレスチェック（H28より）を継続し、教職員個々の健康状態のチェックにあわせ、職場全体が働きやすい状況にあるかの把握をしていく。また、学校で在校時間を把握できるように取り組む。 ・学校タブレット関係 <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度より、児童生徒一人1台タブレットが始まるが、ICT支援員により活用方法のサポート、児童利用時のサポートなど運用面や、故障や破損時について、タブレットを利用しながら検討していく必要がある。 ・教員の多忙化解消 <ul style="list-style-type: none"> 教員の働き方改革として、学校休業日の設定、時間外電話のアナウンス等進めているが、変形労働時間など働き方が検討され、労働時間の把握や在校時間の短縮に向けた取り組みを検討する必要がある。

令和3年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・就学に向けての相談については、保護者、学校、関係機関と連携を取りながら進めていく。 ・SSWの学校巡回を継続し、児童生徒の様子を観察しながら、家庭への接し方や、教員へのアドバイスを行い、個々の問題に対応していく。あわせて、学校、適応指導教室、SSW、福祉分野などの関係機関と調整し、それぞれのノウハウを生かしながら問題解決につなげていく。 ・タブレットの保守管理や活用方法のサポートとして、ICT支援員の配置。また児童生徒のトラブルやサポートをするスタッフなどタブレットに係る支援やサポートを具体化していく。 ・教育相談など児童生徒に対するニーズは、多様化する中で、教員の業務も多義にわたるようになり、教員の適切な在校時間に努めることは大きな課題であるが、教員の在校時間が法整備されるなど、適切な勤務に努めるため、出退勤システムで教員の在校時間を把握する。 ・奨学金返還、私立高等学校等授業料補助を次世代育成事業（特別会計）へ変更。
-----------------------	---

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第1章	次代を担う子ども・若者の育成				
	基本政策	第2節	学びの基礎をつくる				
成果指標	子どもたちがのびのびと育っていると感じている町民の割合						
H26実績値	R1実績値	R2計画値	R3目標値	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値
70.2%	75.8%	72.0%	-	-	-	-	77.0%

■3年間の目標

目標	児童生徒用タブレットの利用を推進					
項目(単位)	R1実績	R2計画	R3目標	R4目標	R5目標	

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R4年度	学校PC(教職員用)更新
R5年度	タブレットの利用状況の検証

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
5	・総合教育会議
6	・ICT支援業務開始（～3月）
10	・いじめ問題対策連絡協議会
3	・外部評価委員会
	・通学路安全推進会議
	適応指導教室連絡協議会
	就学時健康診断
	令和3年度経営案の作成、連絡会議
	学校連絡会議（毎月）

■事業コスト

		単位	R1年度決算額	R2年度当初予算額	R3年度計画額
事業費		千円	38,234	61,151	51,929
（内特定財源）		千円	738	1,241	807
人工	職員	人工	1.2	1.1	0.7
	会計年度 任用職員	人工	3.2	2.6	2.6
	計	人工	4.4	3.7	3.3

■令和3年度計画特定財源内訳

（単位：千円）

特定財源名称	金額	備考（充当先等）
学校基本調査事務市町村交付金	7	
教育支援体制整備事業費補助金（いじめ対策・不登校支援等総合推進事業）	800	
合計	807	

■令和3年度計画額の主な増減

（新たな取組、臨時経費、廃止項目等）

（単位：千円）

項目（科目等）	計画額	増減額	内容
GIGAスクールタブレット 保守	5,228	5,228	タブレット故障時代替え機のセットアップ等
ICT支援業務	6,732	6,732	タブレット活用におけるサポート

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・就学に向けての相談については、保護者、学校、関係機関と連携を取りながら実施した。
- ・SSWの巡回は、コロナの感染状況により控える時期もあったが、巡回時には児童の様子を確認したり、教員へのアドバイスをを行った。また、相談に来所した保護者にもきめ細やかに対応した。
- ・タブレット端末、デジタル教材の活用推進のため、ICT支援員を配置し、教職員への技術面、運用面での助言や支援を行った。
- ・タブレットの配備にあわせ、Wi-Fi ルーターの貸出しを行った。(108台)
- ・出退勤システムを導入し、教職員の在校時間を正確に管理することができるようになった。

■ 評価

- ・SSWの配置により、学校現場だけでは解決が難しい事案については関係箇所と連携し、問題解決に向けて取り組むことができた。
- ・令和3年度より、児童生徒に一人1台のタブレットが配備されたのに併せて、ICT支援員を配置し、児童生徒のタブレット利用時のサポートや教職員への技術面、運用面のサポートが可能となった。使用していく中で生じたアクセス制限の課題や、故障、破損時の対応などについて検討していく必要がある。
- ・Wi-Fi環境の整っていない、もしくは通信制限が5ギガ以下の家庭に対してルーターの貸出しを行うことでタブレットの持ち帰り学習に対応することができた。
- ・出退勤システムの導入で在校時間が2時間以上超過する場合に理由を入力するようになったことから、自身の健康状況の把握にもつながっている。
- ・令和3年度末に、アレルギー等をもつ児童生徒が学校に提出する学校生活管理指導表の作成に係る費用の一部を助成する制度を開始し、保護者の方の負担軽減に努めた。
- ・教職員のパソコンの更新時期が迫っていることと、半導体不足の影響によりサーバー・端末の納期の遅れが懸念されたことから、令和4年1月に補正予算で対応し、令和4年度の早い時期に納入できるよう繰越明許した。

■ 特記事項

令和3年度 事業別行政経営計画書【A】

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	3
事業名	小学校運営事業		

■基礎情報

目的	学校・家庭・地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりや授業力向上をめざした教員の資質向上を図り、学校教育の目的を達成するために、適切かつ効果的に教育事務を推進する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育調査、統計、広報等 ・教科書、教材購入 ・児童の健康診断 ・各種検査・テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞会 ・スクールバス運行 ・英語指導助手講師派遣 	
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、各学校の特色を活かした活動を進めるとともに、学級を基盤とした児童の豊かな心を育む教育活動を進めている。 ・教育の多様化に対応するため、学校施設、設備等の教育環境や、人的資源等の有効活用を一層研究し、児童の意欲を喚起する学習指導の推進、特別な教科となる道徳の時間を重視した豊かな心の育成に取り組む必要がある。 ・Q-U 検査を全小学校3～6年生を対象に実施し、個人や学級の状態を統計的に把握することで、落ち着いた学級経営を実現するとともに、個人の抱える問題をさぐり、いじめ、不登校を未然に防ぐ一助とする。 ・令和2年度から、新学習指導要領により英語が5、6年生は教科化、3年生からは外国語活動として必修化され、授業、評価方法など、動向をみていく必要がある。 ・外国語指導委託業務については、英語専科の教員配置が一部の小学校で始まり、補助で入る学年や授業数を検討する必要がある。 		
令和3年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員に対する各種研修を通じ、学校施設、設備等の教育環境や、人的資源等を有効活用した教職員の創意工夫と授業力の向上を図る。 ・各学校において、これまでの実践で得た成果、課題等をもとに学校経営案を策定し、各学校の特色を活かした、地域に根ざした学校づくりとして、独自の教育活動の充実を更に図る。 ・学校支援員については、1年生の学級数+1名を配置し、個別事情を抱えた児童への配慮や、円滑な学級運営に対応できるよう引き続き実施。 ・『大口学びスタイル 2021』により、児童に心と体を整えて授業に臨む姿勢を定着させ、落ち着いて学習に臨める環境づくりに取り組むとともに、「大口家庭学習のスタンダード」を配布し、家庭でも学習環境づくりを進めるため、学習時間の目安を提案する。 		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第1章	次代を担う子ども・若者の育成				
	基本政策	第2節	学びの基礎をつくる				
成果 指標	子どもたちがのびのびと育っていると感じている町民の割合						
H26 実績値	R1 実績値	R2 計画値	R3 目標値	R4 目標値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値
70.2%	75.8%	72.0%	-	-	-	-	77.0%

■3年間の目標

目標						
	項目(単位)	R1 実績	R2 計画	R3 目標	R4 目標	R5 目標

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R4 年度	児童生徒に応じた看護師、支援員等の配置
R5 年度	教科書改訂に向けた指導者用デジタル教材の検討

■作業工程 (当該年度)

月	作業内容
4	目標の設定
10	前期の評価・検証、後期へ向けての活動内容の確認
3	後期の評価・検証、次年度へ向けての課題、改善策の確認
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級を基盤とした教育活動を実施し、その都度、問題点の把握と情報共有を図り、改善策を検討する。 ・児童一人ひとりに学習意欲を持たせ、主体的・対話的で深い学びの授業により基礎学力の向上を図ることで、自ら学ぶ姿勢を育む。

■事業コスト

		単位	R1 年度決算額	R2 年度当初予算額	R3 年度計画額
事業費		千円	92,727	101,459	105,162
(内特定財源)		千円	675	768	701
人工	職員	人工	0.9	0.9	0.9
	会計年度 任用職員	人工	29.5	26.1	26.1
	計	人工	30.4	30.4	27.0

■令和3年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
教育支援体制整備事業費補助金(切れ目ない支援体制整備充実事業)	701	
合計	701	

■令和3年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■目標又は改善策に対する取組内容

- ・令和2年度は、学校の臨時休業もあり、学校行事の相次ぐ中止など混乱の一年であったが、令和3年度は、コロナ禍であっても、感染状況を見ながら教育活動等を行った。学校により、規模を縮小したり、時間差を設ける、来校人数を制限したりするなど感染予防に努めながら実施した。
 - 儀式 入学式（来賓出席なし） 卒業式（来賓一部出席）
 - 運動会 保護者のみ参加（来賓出席なし）、学習発表会（北小開催、南小・西小中止）
 - 修学旅行 全校実施（北小のみ実施時期6月から10月へを変更）
 - 水泳指導 中止
 - 給食 前向きで黙食
- ・令和2年度は急な休校に対する学びの保障として、課題等を郵送したが、令和3年度は休校に至ることはなかったものの、そのような時に備えタブレットを活用する方向で日頃の教育活動を行った。
- ・学校支援員については、年度当初は、各学校の1年生の学級数+1名もしくは学級数+2名を配置し、学級運営のサポートを行った。

■評価

- ・学校行事については、コロナ禍であっても、感染症対策を講じ、開催方法を工夫しながら実施したものと、令和2年度に引き続き中止を余儀なくされたものがあった。
- ・支援が必要な児童は増加しており、学校支援員を配置することで、個別の事情を抱えた児童への対応や、学級運営に柔軟に対応することができた。平成31年度より、医療的ケア児に対応する看護師を南小に支援員兼看護師という立場で配置しているが、令和4年度には、その他の小学校にも配置する方向で検討した。

■特記事項

令和3年度 事業別行政経営計画書【B】

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	4
事業名	小学校施設管理事業		

■基礎情報

目的	児童が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所であるよう、学校施設の維持管理、整備を行う。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none">・施設の維持管理・教具、その他の設備の修繕		
現在における経過又は課題	国のインフラ長寿命化基本計画に基づき、各学校施設の個別施設計画を作成し施設の長寿命化に向けた施設管理を行っていく。		
令和3年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none">・大口南小学校、大口北小学校については、計画している修繕を行いながら、施設の管理に努める。・大口西小学校においては、小学校整備事業において、長寿命化設計を予定しており、緊急性の高い修繕は優先して行うが、長期的なものについては長寿命化設計に盛り込む。		

■ 第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第1章	次代を担う子ども・若者の育成				
	基本政策	第2節	学びの基礎をつくる				
成果指標	/						
H26 実績値	R1 実績値	R2 計画値	R3 目標値	R4 目標値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値

■ 3年間の目標

目標	施設の維持管理、定期的な保守点検の実施					
	項目(単位)	R1 実績	R2 計画	R3 目標	R4 目標	R5 目標

■ 2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R4 年度	学校要望の修繕や保守点検等で不具合設備の機器更新等の検討
R5 年度	照明設備のLED更新(蛍光灯、水銀灯からLEDへ)(学校整備事業と共通)

■ 作業工程 (当該年度)

月	作業内容
4	年間契約となる各施設の保守点検契約
5	消防設備点検、運動遊具点検結果による修繕等(必要な場合) 保健所プール施設検査及び水質検査による指導改善等
6	大口南小学校、北小学校 窒素酸化物濃度測定1回目
7	各学校予定箇所の修繕実施
8	南小側溝清掃、西小農器具庫取替修繕、タイヤ遊具の撤去工事 消防設備点検、運動遊具点検結果による修繕等(必要な場合)
11	大口南小学校、北小学校 窒素酸化物濃度測定2回目(西小:対象冷温水機がないため不要)
12	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 修繕は、学校で要否判断のうえ起案した後、学校教育課で再判断してから施行する。

■事業コスト

		単位	R1 年度決算額	R2 年度当初予算額	R3 年度計画額
事業費		千円	46,775	52,265	50,168
(内特定財源)		千円	130	118	0
人工	職員	人工	0.4	0.5	0.4
	会計年度 任用職員	人工	0.0	0.2	0.2
	計	人工	0.4	0.6	0.6

■令和3年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
太陽光発電電力売払収入	65	
行政財産目的外使用料	61	
合計	126	

■令和3年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
南小側溝清掃	522	522	グラウンド周囲の側溝に土がたまり、排水が悪くなっているため浚渫を行うもの。
西小納器具庫交換修繕	390	390	農器具庫が老朽化により傷みが激しいため、安全のために交換修繕を行うもの。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 当初の計画に沿って修繕を行った。西小については、改修工事を視野に入れ、消防用設備修繕等緊急性の高いものを優先的に行った。
- ・ 南小の主要な修繕としては下記事項。
 - ・ 側溝浚渫を行い、排水が改善された。
 - ・ 体育館倉庫にて雨漏りがあったため、修繕を行い解消された。
 - ・ 2年ほど映像が映らない状態であった放送機器を修繕し、校内放送が正常にできるようになった。
- ・ 北小の主要な修繕としては下記事項。
 - ・ 体育館前にて漏水が発覚したため調査した結果消防用配管の破損と判明した。配管の修繕と、調査と修繕のさいにめくったアスファルトの補修工事を行った。
 - ・ 体育館トイレにて排水つまりが発生した。工事規模が大きくなると予想されるため、応急処置のみをおこない、根本を改善する修繕については令和4年度に行う予定とする。
 - ・ 消防用設備の点検にて発覚した不良個所の修繕を行った。
- ・ その他、突発的な修繕には適切に対応しながら修繕を行った。

■ 評価

- ・ 計画に沿って維持管理・整備を行いながら、学校施設の安全確保に努めた。
- ・ 南小、北小については、建築・改築から10年近く経過し、修繕要望も増加傾向にある。今後も計画的な修繕と定期的な消耗品等の交換により、維持管理を行っていく必要がある。

■ 特記事項

令和3年度 事業別行政経営計画書【B】

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	5
事業名	小学校整備事業		

■基礎情報

目的	児童が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所とするため、整備する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none">・学校施設整備・教具、その他施設整備		
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none">・昭和51年（1976年）に開校した大口西小学校の学校施設は竣工から40年以上経過しており、壁や躯体など老朽化が著しくなっている。そこで、令和2年度に校舎を80年間使用することを前提に施設の長寿命化基本設計を行った。令和3年度は引き続き実施設計を行っていく。		
令和3年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none">・大口西小学校長寿命化改修工事の具体的な実施設計を行っていく。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第1章	次代を担う子ども・若者の育成				
	基本政策	第2節	学びの基礎をつくる				
成果指標	/						
H26 実績値	R1 現状値	R2 実績値	R3 目標値	R4 目標値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値

■3年間の目標

目標	西小学校施設の長寿命化改修				
項目（単位：内容）	R1 実績	R2 計画	R3 目標	R4 目標	R5 目標
西小学校の施設改修	体育館 トイレ	照明、空 調	タイヤ遊 具	校舎	校舎 体育館

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R4 年度	西小学校の長寿命化改修工事、南小、北小の照明 LED 改修の計画
R5 年度	西小学校の長寿命化改修工事、南小、北小の照明 LED 改修

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4～ 12	・大口西小学校長寿命化改修工事实施設計

■事業コスト

		単位	R1 年度決算額	R2 年度当初予算額	R3 年度計画額
事業費		千円	52,960	132,371	72,297
(内特定財源)		千円	4,705	120,861	
人工	職員	人工	0.1	0.1	0.2
	会計年度 任用職員	人工	0.0	0.0	0.0
	計	人工	0.1	0.1	0.2

■令和3年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合 計		

■令和3年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
大口西小学校長寿命化工事 実施設計業務	65,340	65,340	大口西小学校の長寿命化工事に向けて、より具体的な実施設計を行うもの。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・西小長寿命化改修工事の実施設計の段階でアスベスト、コンクリート調査の必要が生じたため、補正予算で対応し、調査を実施した。
- ・西小学校長寿命化工事の仮設事務所建設地とするためタイヤ遊具の撤去工事を行った。
※タイヤ遊具自体は安全基準にて使用不可となっておりここ2年ほどは利用を制限していた。
- ・南小学校では、新入学児童に対応するため、特別支援学級の教室に可動式間仕切りを設置した。
- ・北小学校の児童クラブにアクセスポイントを設置した。
- ・全小中学校で、回線速度を增強するため、学習タブレット用の新たな回線の新設工事（ローカルブレイクアウト工事）を実施した。

■ 評価

- ・西小長寿命化改修工事の実施設計を進める中で発生した調査に適切に対応した。
- ・西小長寿命化改修工事の実施設計は令和3年度内に終え、令和4年度からは工事に移行していく。新築とは違い教育活動を行いながらの工事のため、夏休みに大掛かりな工事を行うなど、スケジュール管理等の課題も多い。
- ・タイヤ遊具を撤去したことにより、仮設事務所・資材置き場としての場所を確保することができた。令和4年度からの工事のために校庭を犠牲にすることがなく工事を進めていく目途を立てることができた。
- ・児童クラブにアクセスポイントを設置したことにより、児童クラブ内にてタブレットの持ち帰り学習を行うことができるようになった。
- ・新たな回線の新設工事により、全小中学校にてタブレット端末のスムーズな動作につながっている。

■ 特記事項

令和3年度 事業別行政経営計画書【A】

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	6
事業名	小学校教育振興事業		

■基礎情報

目的	<p>学校教育は、地方分権型社会への移行とそれに伴う規制緩和の中で、生涯学習の基礎を築く場としての使命を負っているが、本事業により、地域に根ざした特色ある学校教育の実現のため、子どもたちを取り巻く安全な環境づくり、将来を見据えた活力に溢れる学校づくり等、学校における様々な教育課題に応えることを目的とする。</p> <p>また、今後の地域づくりと一体となった基本構想の一層の具体化を進めるとともに、生涯にわたって学び続ける資質を育てることを目的とする。</p>		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> 副読本、教材の購入 教育調査、統計、広報等 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の就学のための援助 クラブ活動への援助 	
現在における経過又は課題	<p>副読本、教材の購入</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育の振興及び保護者の負担軽減のため、副読本等の現物支給やクラブ活動に代表される、体育的・文化的活動への支援を実施している。 経年劣化している備品を定期的に更新が必要。 <p>児童の就学のための援助</p> <ul style="list-style-type: none"> 義務教育の円滑な実施と特別支援教育の振興に資することを目的とし、経済的な理由により就学困難と認められる児童の保護者や、特別支援学校、特別支援学級に就学する保護者の経済的負担の軽減を図るため必要な援助を行っている。 就学援助の援助費目は、学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、新入学用品費（新入学準備金）、給食費、PTA会費、卒業アルバム代である。 学校給食費については、平成22年度より保護者が負担すべき給食費の半額負担を行っており、平成24年度から、障がいにより大口町立学校に就学していない児童のうち、県立特別支援学校に在籍する児童への就学奨励として、町立学校在籍児童と同様、当該県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）の負担を行っている。 令和2年度より、収入急減者を対象とする就学援助を新たに設け、援助費目を限定した中で支援を始めた。（援助費目：給食費、修学旅行費、卒業アルバム代） 		
令和3年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> 児童の就学のための援助、特別支援教育就学奨励については、教育振興と保護者の負担軽減の観点から、継続実施する。 		

■ 第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第1章	次代を担う子ども・若者の育成				
	基本政策	第2節	学びの基礎をつくる				
成果 指標	子どもたちがのびのびと育っていると感じている町民の割合						
H26 実績値	R1 実績値	R2 計画値	R3 目標値	R4 目標値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値
70.2%	75.8%	72.0%	-	-	-	-	77.0%

■ 3年間の目標

目 標	/					
	項 目 (単位)	R1 実績	R2 計画	R3 目標	R4 目標	R5 目標

■ 2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R4 年度	老朽化した体育的文化的備品等の更新
R5 年度	老朽化した体育的文化的備品等の更新

■ 作業工程 (当該年度)

月	作 業 内 容
	【年間】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 要保護及び準要保護児童就学援助費申請事務 ・ 要保護及び準要保護児童就学援助費支払事務 ・ 特別支援教育就学奨励費申請事務 ・ 特別支援教育就学奨励費支払事務 ・ 特別支援学校児童給食費補助金申請事務 ・ 特別支援学校児童給食費補助金交付事務

■事業コスト

		単位	R1 年度決算額	R2 年度当初予算額	R3 年度計画額
事業費		千円	8,401	10,950	10,245
(内特定財源)		千円	262	200	200
人工	職員	人工	0.7	1.1	0.9
	会計年度 任用職員	人工	0.2	0.4	0.4
	計	人工	0.9	1.5	1.3

■令和3年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
特別支援教育就学奨励費補助金	200	
合計	200	

■令和3年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
備品	77	77	老朽した卓球台の入れ替え(西小)

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・義務教育の円滑な実施と特別支援教育の振興に資することを目的とし、経済的な理由により就学困難と認められる児童の保護者や、特別支援学校、特別支援学級に就学する保護者の経済的負担の軽減を図るため必要な援助を行った。就学援助の認定者数は114名、特別支援奨励費の認定者数は26名であった。
- ・特別支援学校給食費は2名に補助を行った。
- ・新入学児童生徒学用品費等については、小学校に入学する児童の前年度に支給が可能（新入学準備金）となっており、5名の申請を受け認定をした。
- ・収入急減による就学援助の申請者0名であった。

■ 評価

- ・副読本、備品については、教育振興と保護者負担軽減の観点から、適切に購入を行った。
- ・今後も、適切な時期にチラシ等の配布を行い、制度について周知していく。また、就学援助は学校と連携しながら対象者の把握に努めていく。
- ・特別支援学校の給食費の補助については、特別支援学校に制度の趣旨を伝え、証明書類の記入等について協力を依頼する。

■ 特記事項

令和3年度 事業別行政経営計画書【A】

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	7
事業名	中学校運営事業		

■基礎情報

目的	学校・家庭・地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりや授業改善をめざした教員の資質向上を図り、学校教育の目的を達成するために、適切かつ効果的に教育事務を推進する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育調査、統計、広報等 ・教科書、教材購入 ・生徒の健康診断 ・各種検査・テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞会 ・英語指導助手講師派遣 	
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の多様化に対応するため、教科センター方式を導入した教育活動を進める一方で、自治意識と自浄能力を育むため、学級を基盤とした学年（横）とブロック（縦）の活動を進めている。 ・学校施設、設備等の教育環境や人的資源等の有効活用を一層研究し、生徒の意欲を喚起する学習指導の推進やブロック活動を通じた全体指導体制の確立、道徳を重視した豊かな心の育成、地域に生きる者として、地域とともに歩む体制づくりに取り組む必要がある。 		
令和3年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導と生徒指導との関連を念頭に置きつつ、学年の枠を超えたブロック活動を核に生徒の育成を図るとともに、教職員に対する各種研修を通じ、学校施設、設備等の教育環境や、人的資源等を有効活用した教職員の創意工夫と授業力の向上を図る。 ・これまでの実践で得た成果、課題等をもとに学校経営案を策定し、教科センター方式やブロック活動を活かした、地域に根ざした学校づくりとして、独自の教育活動の充実を更に図る。 ・『大口学びスタイル 2021』により、生徒に心と体を整えて授業に臨む姿勢を定着させ、落ち着いて学習に臨める環境づくりに取り組むとともに、「大口家庭学習のスタンダード」を配布し、家庭でも学習環境づくりを進めるため、学習時間の目安を提案する。 		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第1章	次代を担う子ども・若者の育成				
	基本政策	第2節	学びの基礎をつくる				
成果 指標	子どもたちがのびのびと育っていると感じている町民の割合						
H26 実績値	R1 実績値	R2 計画値	R3 目標値	R4 目標値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値
70.2%	75.8%	72.0%	-	-	-	-	77.0%

■3年間の目標

目 標						
	項 目 (単位)	R1 実績	R2 計画	R3 目標	R4 目標	R5 目標

■2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R4 年度	臨時講師、相談員等の配置について、学校、生徒の状況に応じた配置の検討
R5 年度	教科書改訂に向けた指導者用デジタル教材の検討

■作業工程 (当該年度)

月	作 業 内 容
4	全校生徒によるブロック宿泊研修、目標の設定。
10	前期の評価、後期へ向けての活動内容検討。
3	後期の評価、次年度へ向けての課題、改善策の検討。
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科センター方式やブロック活動を通じて、学級活動を基盤とした学年やブロック活動等の教育活動を実施し、その都度、問題点の把握と情報共有を図り、改善策を検討する。 生徒一人ひとりに学習意欲を持たせ、基礎学力の向上を図ることで、自ら学ぶ姿勢を育む。

■事業コスト

		単位	R1 年度決算額	R2 年度当初予算額	R3 年度計画額
事業費		千円	41,501	50,665	53,165
(内特定財源)		千円	235	35	35
人工	職員	人工	0.9	0.9	0.9
	会計年度 任用職員	人工	10.5	9.1	9.1
	計	人工	11.4	10.0	10.0

■令和3年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
キャリアスクールプロジェクト委託金	35	キャリアスクールプロジェクト委託料
合計	35	

■令和3年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
教科書改訂	3,817	3,817	教科書改訂による教員用指導書等の購入
修繕料	500	△1,238	R2年度ピアノ修繕による一時増のため

■目標又は改善策に対する取組内容

- ・令和2年度は、学校の臨時休業もあり、学校行事の相次ぐ中止など混乱の一年であったが、令和3年度は、コロナ禍であっても、感染状況を見ながら教育活動等を行った。活動によって、規模を縮小したり、時間差を設ける、来校人数を制限したりするなど感染予防に努めながら実施した。
 - 儀式 入学式（来賓出席なし） 卒業式（来賓一部出席）
 - 体育大会、合唱コンクール 保護者のみ人数を制限（来賓出席なし）
 - 修学旅行 令和2年度より東京から松江市へコロナ感染状況を鑑みて変更
 - 給食 前向きで黙食
 - 部活動 まん延防止期間中は中止
 - 教科別の教室移動（特別教室利用教科以外）は令和2年度から引き続き中止
- ・令和2年度は急な休校に対する学びの保障として、課題等を郵送したが、令和3年度は休校に至ることはなかったものの、そのような時に備えタブレットを活用する方向で日頃の教育活動を行った。
- ・令和2年度熱中症対策、コロナ感染予防対策（密の回避）としてスタートした徒歩通学者の自転車通学（希望者）は令和3年度も継続した。それに伴う駐輪場の不足を補うため、自転車置場を新たに設置することとなった。
- ・教科センター方式は、教科エリア（教室、教科ラウンジ）の施設環境を整備し、教科の特性に合わせてスペースを有効活用している。（テスト前の学習会、英語クラブ、漢検・英検に向けての勉強の場等）
- ・ブロック活動は、学年、学級に重点を置いた指導へ転換。ブロック宿泊研修を見直し、2年生で自然教室を実施。生徒会主催行事や体育大会、合唱コンクールの練習等はブロックで実施。（行事等を中心に異学年交流であるブロック活動は継続）

■評価

- ・コロナ感染症対策を講じて、感染状況を見ながら、教育活動や行事等を実施することができた。
- ・学校行事については、コロナ禍であっても、感染症対策を講じ、開催方法を工夫しながら実施した。
- ・駐輪場の設計段階で中学校建設時の確認申請手続きに不備があることが判明したため、不備是正に時間を要しているため、令和4年度に繰越明許した。

■特記事項

令和3年度 事業別行政経営計画書【B】

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	8
事業名	中学校施設管理事業		

■基礎情報

目的	生徒が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設が安全で安心な場所であるよう、学校施設の維持管理、整備を行う。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none">・ 学校施設の維持管理・ 教具、その他設備の修繕		
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none">・ 平成20年4月の開校以来10年以上が経過しているが、校舎及び設備の管理については、総合管理としているため、適切な時期に適切な業務を計画的に実施している。・ 新校舎のため、竣工後2年は施工者による補修等に対応したものもあるが、天災等、施工者原因によらない修繕や、従来から使用している備品の修繕、或いは、定期的なメンテナンス工事（施設整備事業）が今後増加するため、計画的な施行が必要となる。		
令和3年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none">・ プール男子更衣室窓修繕・ 2階天井水漏れ跡、音楽室1、2扉歪み、音楽室1窓歪み修繕・ 教室掲示板張替修繕		

■ 第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第1章	次代を担う子ども・若者の育成				
	基本政策	第2節	学びの基礎をつくる				
成果指標	/						
H26実績値	R1実績値	R2計画値	R3目標値	R4目標値	R5目標値	R6目標値	R7目標値

■ 3年間の目標

目標	施設の維持管理、定期的な保守点検の実施					
項目(単位千円)	R1実績	R2計画	R3目標	R4目標	R5目標	

■ 2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R4年度	学校要望の修繕や保守点検等で不具合設備の機器更新等の検討
R5年度	照明設備のLED更新(蛍光灯、水銀等からLEDへ)

■ 作業工程(当該年度)

月	作業内容
4	年間契約となる各施設設備の保守点検契約
5	保健所プール施設検査及び水質検査による指導改善等 消防設備点検、運動遊具点検結果による修繕等(必要な場合) プール更衣室換気扇修繕
7	放送設備修繕、プール男子更衣室窓修繕
~	2階天井水漏れ跡、音楽室1、2扉歪み、音楽室1窓歪み修繕
8	教室掲示板張替修繕、ランチルーム配膳台キャスター修繕
11	消防設備点検、運動遊具点検結果による修繕等(必要な場合)
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修繕は、学校で要否判断のうえ起案した後、学校教育課で再判断してから施行する。

■事業コスト

		単位	R1 年度決算額	R2 年度当初予算額	R3 年度計画額
事業費		千円	31,801	33,377	32,737
(内特定財源)		千円	9	9	9
人工	職員	人工	0.4	0.5	0.4
	会計年度 任用職員	人工	0.0	0.2	0.2
	計	人工	0.4	0.7	0.6

■令和3年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
行政財産目的外使用料	9	
合計	35	

■令和3年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
2階天井、音楽室1、2扉歪み、音楽室1窓歪み修繕	813	813	2階天井の水漏れ跡の化粧板取替や、音楽室の扉・窓などが歪んでおり、開閉や施錠がしにくくなっているため修繕するもの。
教室掲示板張替修繕	816	△174	教室壁面のコルクボードが老朽化により使えなくなっている部分をホワイトボードへ取替を行うもの。R3は4教室修繕し、R3で破損している教室はすべて修繕完了となる。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 当初の計画どおり、教室掲示板張替修繕、経年劣化による窓・引き戸の修繕、雨漏りや水漏れによる天井・廊下のシミ修繕を行った。消防設備の点検結果により消防用設備の修繕に対応した。
- ・ 突発的な修繕には適切に対応しながら修繕を行った。※井水の基盤修繕等

■ 評価

- ・ 計画に沿って維持管理・整備を行いながら、学校施設の安全確保に努めた。

■ 特記事項

令和3年度 事業別行政経営計画書【A】

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	9
事業名	中学校教育振興事業		

■基礎情報

目的	<p>学校教育は、地方分権型社会への移行とそれに伴う規制緩和の中で、生涯学習の基礎を築く場としての使命を負っているが、本事業により、地域に根ざした特色ある学校教育の実現のため、子どもたちを取り巻く安全な環境づくり、将来を見据えた活力に溢れる学校づくり等、学校における様々な教育課題に応えることを目的とする。</p> <p>また、今後の地域づくりと一体となった基本構想の一層の具体化を進めるとともに、生涯にわたって学び続ける資質を育てることを目的とする。</p>
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 副読本、教材の購入 ・ 教育調査、統計、広報等 ・ 生徒の就学のための援助 ・ 部活動への援助
現在における経過又は課題	<p>副読本、教材の購入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の振興及び保護者の負担軽減のため、副読本等の現物支給や部活動に代表される、体育的・文化的活動への支援、ブロック宿泊研修への参加負担金の補填をしている。 <p>生徒の就学のための援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 義務教育の円滑な実施と特別支援教育の振興に資することを目的とし、経済的な理由により就学困難と認められる生徒の保護者や、特別支援学校、特別支援学級に就学する保護者の経済的負担の軽減を図るため必要な援助を行っている。 ・ 就学援助の援助費目は、学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、新入学用品費（新入学準備金）、給食費、PTA会費、生徒会費、卒業アルバム代である。 ・ 学校給食費については、平成22年度より保護者が負担すべき給食費の半額負担を行っており、平成24年度から、障がいにより大口町立学校に就学していない生徒のうち、県立特別支援学校に在籍する生徒への就学奨励として、町立学校在籍生徒と同様、当該県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）の負担を行っている。 ・ 令和2年度より、収入急減者を対象とする就学援助を新たに設け、援助費目を限定した中で支援を始めた。（援助費目：給食費、修学旅行費、卒業アルバム代）
令和3年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の就学のための援助、特別支援教育就学奨励については、教育振興と保護者の負担軽減の観点から、継続実施する。

■ 第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第1章	次代を担う子ども・若者の育成				
	基本政策	第2節	学びの基礎をつくる				
成果 指標	子どもたちがのびのびと育っていると感じている町民の割合						
H26 実績値	R1 実績値	R2 計画値	R3 目標値	R4 目標値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値
70.2%	75.8%	72.0%	-	-	-	-	77.0%

■ 3年間の目標

目 標						
	項 目 (単位)	R1 実績	R2 計画	R3 目標	R4 目標	R5 目標

■ 2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R4 年度	老朽化した体育的文化的備品等の更新
R5 年度	老朽化した体育的文化的備品等の更新

■ 作業工程 (当該年度)

月	作 業 内 容
	【年間】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 要保護及び準要保護生徒就学援助費申請事務 ・ 要保護及び準要保護生徒就学援助費支払事務 ・ 特別支援教育就学奨励費申請事務 ・ 特別支援教育就学奨励費支払事務 ・ 特別支援学校生徒給食費補助金申請事務 ・ 特別支援学校生徒給食費補助金交付事務

■事業コスト

		単位	R1 年度決算額	R2 年度当初予算額	R3 年度計画額
事業費		千円	9, 0 1 1	1 1, 6 2 8	1 6, 7 8 4
(内特定財源)		千円	9 6	1 6 0	1, 1 9 0
人工	職員	人工	0. 7	1. 1	0. 8
	会計年度 任用職員	人工	0. 2	0. 3	0. 3
	計	人工	0. 9	1. 4	1. 1

■令和3年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
特別支援教育就学奨励費補助金	1 0 0	
地域運動部活動推進委託金	1, 0 9 0	
合計	1, 1 9 0	

■令和3年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・義務教育の円滑な実施と特別支援教育の振興に資することを目的とし、経済的な理由により就学困難と認められる生徒の保護者や、特別支援学校、特別支援学級に就学する保護者の経済的負担の軽減を図るため必要な援助を行った。就学援助の認定者数は59名、特別支援奨励費の認定者数は2名であった。
- ・特別支援学校給食費は3名に補助を行った。
- ・新入学児童生徒学用品費等については、中学校に入学する生徒の前年度に支給が可能（新入学準備金）となっており、8名の申請を受け認定をした。
- ・収入急減による就学援助の申請者0名であった。
- ・部活動については、一部の種目（水泳、サッカー、バレー）をウイル大口スポーツクラブに委託した。水泳部については指導者がいないということで廃部になっていたが、ウイルから指導者を派遣することで部を復活させることができた。
- ・休日移行だけではなく、一貫した指導が生徒にとって大切であると捉え、平日も指導者を派遣できる体制をウイルと調整し構築した。

■ 評価

- ・副読本、備品については、教育振興と保護者負担軽減の観点から、適切に購入を行った。
- ・今後も、適切な時期にチラシ等の配布を行い、制度について周知していく。また、就学援助は学校と連携しながら対象者の把握に努めていく。
- ・特別支援学校の給食費の補助については、特別支援学校に制度の趣旨を伝え、証明書類の記入等について協力を依頼する。
- ・部活動の外部委託は、これまでの部活動に加え、専門的な指導を受けられるということで、保護者や生徒からは好意的な意見がもらえている。また、担当部活の指導経験がない教師への不安解消、教員の働き方に対する点においても効果は見られている。
- ・来年度に向けて、陸上とバスケットボールを増やすことを検討している。
- ・令和3年度は、コロナにより部活動懇談会においてウイルが入る経緯など、保護者への説明が十分でなかったため、今年度は全部活で説明をしてもらう。また、指導者と顧問の連絡の取り方（急な練習変更・緊急時の対応）、休日にウイル指導者が行う部活動の施設管理（鍵の管理）などは今後の課題となっている。

■ 特記事項

令和3年度 事業別行政経営計画書【A】

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	10
事業名	社本育英事業		

■基礎情報

目的	大口町名誉町民故社本鋭郎氏のご遺族からの寄付金を基金として昭和57年に発足し、町立中学校に在学し、高等学校等へ進学を希望する生徒の中から奨励金あるいは奨学金を交付し、将来社会の一線で活躍されることを目的とする。	
事務内容	<ul style="list-style-type: none">・奨励金候補者の推薦及び決定・奨学金の申請・奨学生の決定・奨励金、奨学金の交付	<ul style="list-style-type: none">・校外活動への支援（計画変更、キャンセル分を含む）
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none">・昭和58年度から令和2年度までの38年間で285名の奨学生が誕生し、それぞれ社会の一線で活躍している。・平成25年度から社本育英事業スポーツ大賞を創設し、故社本鋭郎氏のご意思、ご遺族の想いに応えられるようまた、地域スポーツの育成や発展を図った。・平成27年度に従来の施行規則を改正し、従来の奨学金を「奨励金」と名称を改めるとともに、経済的な理由により高校等への就学が困難な生徒を支援する制度として「奨学金」を創設した。・令和2年度に事業の見直しを行い、奨励金の金額を10万円から5万円に減額し、奨学金は、成績要件をなくし5万円1回のみ支給に変更した。また、校外活動への支援を新たに開始した。	
令和3年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none">・令和2年度に事業の見直しを行い、奨学金については成績要件をなくした。高等学校等へ入学する際に必要な支度金の一部を支給することにより、進学先の選択肢が広がることに繋がると良い。	

■ 第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第1章	次代を担う子ども・若者の育成				
	基本政策	第2節	学びの基礎をつくる				
成果 指標	子どもたちがのびのびと育っていると感じている町民の割合						
H26 実績値	R1 実績値	R2 計画値	R3 目標値	R4 目標値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値
70.2%	75.8%	72.0%	-	-	-	-	77.0%

■ 3年間の目標

目 標						
	項 目 (単位)	R1 実績	R2 計画	R3 目標	R4 目標	R5 目標

■ 2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R4 年度	対象者について、他の就学支援策との重複など確認し、支給者、制度内容を精査する。
R5 年度	卒業後の進学状況から、制度内容を検討する。

■ 作業工程 (当該年度)

月	作 業 内 容
4	奨励金・奨学金支払
12	奨励金候補者の推薦依頼 奨学金の申請
2	運営理事会による奨励金候補者の決定
3	奨学金候補者の決定
	【年間】 ・卒業見込み者（中学3年生）の進路指導と被推薦者の検討

■事業コスト

		単位	R1 年度決算額	R2 年度当初予算額	R3 年度計画額
事業費		千円	1, 150	1, 150	17, 432
(内特定財源)		千円	1, 150	1, 150	17, 432
人工	職員	人工	0. 1	0. 1	0. 1
	会計年度 任用職員	人工	0. 2	0	0
	計	人工	0. 3	0. 1	0. 1

■令和3年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
社本育英事業基金運用収入	29	
社本育英事業基金繰入金	17, 403	
合計	17, 432	

■令和3年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 奨励金は、6名に支給した。
- ・ 奨学金は、令和2年度の決定者11名と、令和元年度決定者1名、平成30年度決定者4名、合計16名に支給した。
- ・ 校外活動への支援は、キャンセル料について北小学校と大口中学校に交付した。新型コロナの感染予防の観点から、修学旅行、自然教室の日程を変更したことによるものである。

■ 評価

- ・ 奨学金は成績要件をなくし、支給年数を3年から1年限りとし、広く支給することができるようになった。
- ・ 校外活動を支援することで、キャンセル料を心配することなく校外活動を計画、実施することができた。

■ 特記事項

令和3年度 事業別行政経営計画書【A】

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	1 1
事業名	こども未来応援事業		

■基礎情報

目的	<p>これまで、一般会計において行ってきた私立高等学校等授業料補助や奨学金返還事業を、町への寄付金と一般会計からの繰入金を財源とする次世代育成事業特別会計のこども未来応援事業において実施する。</p> <p>こどもたちへの支援を一本化し、こどもたちの成長段階に応じた支援を行うことで、人財を育成することを目的とする。</p>	
事務内容	<ul style="list-style-type: none">・私立高等学校等授業料補助金・高等学校等通学費助成	<ul style="list-style-type: none">・奨学金返還支援・次世代育成活動奨励事業
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none">・令和2年度に新設した高等学校等通学費助成事業は、高等学校等へ定期券等を購入し通学する生徒の保護者の負担軽減を図ることを目的に通学費の一部を助成する制度。所得制限は設けず、年間6万円を超える場合に3万円を上限として助成。・次世代育成活動奨励事業は、個人、団体の自己研鑽を継続する活動や社会への寄与を目指し研究に取り組み活動を助成対象とし、活動内容等を広く周知する支援を行っていく。・私立高等学校等授業料補助金については、国、県の補助が拡充したことに伴い、令和2年度に制度を見直し、助成を継続している。	
令和3年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none">・奨学金返還支援事業については、新規の対象者が絞り切れない状況ではあるが、町の事業を活用しながら募集を行い、継続の対象者（2、3年目の申請者）については、申請漏れのないよう案内を行う。・私立高等学校等授業料補助金については、国、県の動向を注視しながら助成を行っていく。・次世代育成活動奨励事業は、令和3年度が初年度となる。	

■ 第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第1章	次代を担う子ども・若者の育成				
	基本政策	第2節	学びの基礎をつくる				
成果 指標	子どもたちがのびのびと育っていると感じている町民の割合						
H26 実績値	R1 実績値	R2 計画値	R3 目標値	R4 目標値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値
70.2%	75.8%	72.0%	-	-	-	-	77.0%

■ 3年間の目標

目 標											
項 目 (単位)							R1 実績	R2 計画	R3 目標	R4 目標	R5 目標

■ 2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R4 年度	国、県の制度による支援内容及び状況調査
R5 年度	各支援策の検討

■ 作業工程 (当該年度)

月	作 業 内 容
5	次世代育成活動奨励金事業申請
8	奨学金返還支援事業
10~11	私立高等学校等授業料補助 高等学校等通学費補助

■事業コスト

		単位	R1 年度決算額	R2 年度当初予算額	R3 年度計画額
事業費		千円			4,620
(内特定財源)		千円			4,620
人工	職員	人工			0.2
	会計年度 任用職員	人工			0
	計	人工			0.2

■令和3年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
子ども未来基金利子等収入	1	
一般会計繰入金	1,820	
一般会計繰入金(子ども未来分)	2,587	
子ども未来基金繰入金	212	
合計	4,620	

■令和3年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・令和2年度まで一般会計において行ってきた私立高等学校等授業料補助、奨学金返還事業と令和2年度に新たに開始した高等学校等通学費助成をこども未来応援事業にまとめ、私立高等学校等授業料補助は42名、奨学金返還支援事業は47名、高等学校等通学費助成は76名に対して支援を行った。
- ・次世代育成活動奨励事業は2名の申請があり、広報おおぐちで紹介し、活動内容等を周知し応援した。

■ 評価

- ・令和2年度まで一般会計で行っていた補助等をこども未来応援事業に一本化し、成長段階に応じた支援を行うことができた。
- ・来年度以降も広報おおぐち、町ホームページで助成制度を周知していく。

■ 特記事項